

まごの手新聞

No.162
平成22年
1月号

奥様のかゆ~いところに手が届く まごの手新聞「無料」



1月19日は のび自慢の日

「のび自慢の日」

1月19日はのび自慢の日です。1976年(昭和21年)のこの日、NHKフジオで第一回目の「のび自慢素人音楽会」が放送されました。予選には900組以上が応募し、30倍もの高倍率となったそうです。戦後の苦しい生活の中で、歌がとれほど人々の支えになってきたか分かりますね。その後、タイトルを「NHKのび自慢」に変えて、現在まで続いています。

まごの手歳時記

北島三郎、五木ひろし、森進一など、デビュー前にこの番組に出た歌手は多く、最近では「海雪」を歌うシエロもその一人だそうですよ。

趣味を始めよう!

子どもたちへの読み聞かせ運動が全国各地で盛んなようです。物語を耳で聴くことには、情緒的な成長にとってもいいそうですね。また、聴くだけでなく読み手側も、声に出して読むことで気持ちが落ち着くといわれています。これは、絵本に限った事ではないようです。朗読教室では、普段は黙読でしか読まないような小説などを、聴いている人が理解しやすいようにリズムや間を取りながら読む練習をします。黙読ではさらりと読み飛ばしてしまうような、細やかな言葉の機微にまで気を配って読むので、読み手自身も作品への

人に聴かせる技を磨く「朗読教室」

理解を深めることができるそうです。また、教室に通うことで、自分では選ばないような様々な日本文学を読めるのも魅力です。劇のせりふのようなドラマチックな演技はしませんが、それだけに、声の調子一つで聴く人との一体感を味わえるのが醍醐味といえます。

ラジオドラマの元ディレクターやアナウンサーなど、「話しのプロ」が講師となる例が多いので、安心して学べそうですよ。



がんばれ! 子育てファイル

寝転がって話そう



子どもがだんだん大きくなり、思春期に差し掛かる頃から、親と子の間になんとも見えない壁のようなものができることがあるようです。子どもが親から巣立つ準備を始めたのだと思えば、か

えって喜ばしい変化と言えるかもしれませんが。しかし大人びてきた様でも、何かあった時にまだまだ親を必要とするのが、「この年頃の子どもの特徴です。なにか悩んでいるようだけと素直になれない…。我が子のそんな様子が見て取れたら、親としてはさりげなく手を差し伸べてあげたいものですね。

コメディエンスで女優の清水ミチコさんは娘さんが小さな頃から、よくベッドに寝転がって親子の会話をしてきたそうです。人は会話をするとき、相手の位置でリラックスの度合いが違っています。例えば机を挟んで正面から向き合つと緊張感が強くなり、机の角を挟んで90度の位置に座ると緊張感が和らぎます。お互いに並んで寝転がって話せば、リラックス効果は抜



群でしようね。親子だからこそのできるコミュニケーションと言えりかもしれませぬ。そうやって話すと、不思議と肩の力が抜けて自分の気持ちを素直に言葉にできるのだとか。清水さんの娘さんも「話を聴いてくれてありがとう」と、普段は思っていないとも言えない素直な気持ちを口にするそうです。親の方も、高圧的な態度や言葉にならずに話ができる気がします。試してみませんか?

あなたらしく生きる100通りの方法

人の意見はおおいに参考にしましょう
ただし
かえって迷ってしまわないよう
「私こう思う」と、自分の意見を持つておくことを
お忘れなく

